The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	がんの緊急対策 : 検診の重要性
Author(s)	田口, 鐵男
Citation	癌と人. 2003, 30, p. 5-9
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23686
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

がんの緊急対策 —検診の重要性—

田　口　鐵　男*

癌の治療成績は，過去30年間で５年生存率が平均して30％向上したといわれている。これには種々の要因が絡んでいると考えられるが，癌の早期発見のための診断技術の画期的な進歩とその実践が最も大きなものであろう。

したがって，癌治療の基本的原則は，早期発見・早期治療にあることは21世紀になっても変わらないし，さらなる診断技術の効果的な実践こそが重要となる。

さて，近年のがん（悪性新生物）による死亡率の動向はどうなっているのだろう。平成13年（2001年）人口動態統計・年計概数が平成14年６月10日に厚生労働省から発表され日本対がん協会でまとめて発表されているので眺めてみたいと思う。

—がん死者30万人を突破—

平成13年のがんによる死亡者は30万586人で前年より5,102人増え30万人台に達した。人口10万人対の死亡率は238.7で，前年の235.2より3.5増となっている。

がんによる死亡者が死亡総数97万313人に占める割合は31.0％で前年の30.7％より0.3％増えた。死亡総数を死因別にわけると，がんが1981年以来トップであることは変わらず，全死亡者の約３人に１人はがんで死亡したことになる。（表１）

部位別では肺がんが相変わらずもっとも多く，前年より1304人増の5万5028人。次いで胃がんが前年より701人減って，4万9949人だった。大腸がんと肝がんが昨年とほぼ同じ数で続いている。

—部位別の増減—

男女とも肺がんによる死亡が増えている。計5万5028人で，内訳は男性3万9900人，女性1万5128人。ともに上昇傾向が続いており，前年に比べさらに胃がんに差をつけている。

表１　がん死亡者数の比較

		13年概数	12年確定	増減
全死亡者数	計	970,313	961,653	8360
	男	528,765	525,903	2862
	女	441,548	435,750	5798
全がん	計	300,586	295,484	5102
	男	181,354	179,140	2214
	女	119,232	116,344	2888

人口動態年計概数から

男性の部位別で前年との差をとると，胃がんは536減となっており，肝がんも15減で横ばい状態だ。一方，肺がんは847，大腸がんは394人増であった。

女性では胃がんが1万7687人でもっとも多く，次いで大腸がんが1万6679人，肺がんが1万5128人。しかし，１位の胃がんは前年に比べ165人減だが，大腸がんは599人増で，前年は胃と大腸の差が約1800だったのが，昨年は１千人まで縮まってきた。肺がんと乳がんも前年に比べて457，481人とそれぞれ増えている。子宮がんは７人減で横ばい状態だ。（表２）

—がんは働き盛りを襲う—

死亡者全体の死因を年齢階層別に比べると，30歳代後半からがんが１位になり，男性では60歳代で，女性は40歳代でピークになる。30～64歳の壮年層では死者総数18万1245人のうち，がんによる死者は７万6426人，42.2％を占めている。（表３）

＊(財)大阪癌研究会常任理事　大阪大学名誉教授

表２　がん部位別死者数と死亡率（前年比較）　人口動態統計から　日本対がん協会作成

		13年概数	12年確定	増減	部位別の％ 13年	部位別の％ 12年	死亡率（人口10万人対） 13年	死亡率（人口10万人対） 12年
全死亡数	計	970,313	961,653	8360			770.7	765.6
	男	528,765	525,903	2862			858.5	855.3
	女	441,548	435,750	5798			686.6	679.5
全がん	計	300,586	295,484	5102	100.0	100.0	238.7	235.2
	男	181,354	179,140	2214	100.0	100.0	294.4	291.3
	女	119,232	116,344	2888	100.0	100.0	185.4	181.4
食道	計	10,673	10,256	417	3.6	3.5	8.5	8.2
	男	9,021	8,706	315	5.0	4.9	14.6	14.2
	女	1,652	1,550	102	1.4	1.3	2.6	2.4
胃	計	49,949	50,650	−701	16.6	17.1	39.7	40.3
	男	32,262	32,798	−536	17.8	18.3	52.4	53.3
	女	17,687	17,852	−165	14.8	15.3	27.5	27.8
大腸	計	36,941	35,948	993	12.3	12.2	29.3	28.6
	男	20,262	19,868	394	11.2	11.1	32.9	32.3
	女	16,679	16,080	599	14.0	13.8	25.9	25.1
肝臓	計	34,301	33,981	320	11.4	11.5	27.2	27.1
	男	23,587	23,602	−15	13.0	13.2	38.3	38.4
	女	10,714	10,379	335	9.0	8.9	16.7	16.2
膵	計	19,390	19,094	296	6.5	6.5	15.4	15.2
	男	10,469	10,380	89	5.8	5.8	17.0	16.9
	女	8,921	8,714	207	7.5	7.5	13.9	13.6
肺	計	55,028	53,724	1304	18.3	18.2	43.7	42.8
	男	39,900	39,053	847	22.0	21.8	64.8	63.5
	女	15,128	14,671	457	12.7	12.6	23.5	22.9
乳房	計	9,718	9,248	470	3.2	3.1	7.7	7.4
	男	66	77	−11	0.0	0.0	0.1	0.1
	女	9,652	9,171	481	8.1	7.9	15.0	14.3
子宮	計	5,195	5,202	−7	1.7	1.8	8.1	8.1
	女	5,195	5,202	−7	4.4	4.5	8.1	8.1
前立腺	計	7,643	7,514	129	2.5	2.5	12.4	12.2
	男	7,643	7,514	129	4.2	4.2	12.4	12.2
白血病	計	6,938	6,766	172	2.3	2.3	5.5	5.4
	男	4,098	3,970	128	2.3	2.2	6.7	6.5
	女	2,840	2,796	44	2.4	2.4	4.4	4.4
その他	計	64,810	63,101	1709	21.6	21.4		
	男	34,046	33,172	874	18.8	18.5		
	女	30,764	29,929	835	25.8	25.7		

（対がん協会報　第456号より）

表３　年齢層別・死因上位３つの死亡数・比率と死亡率（人口10万人対）　人口動態から作成

年齢	死亡計	第１位 死因	死亡数	%	死亡率	第２位 死因	死亡数	%	死亡率	第３位 死因	死亡数	%	死亡率
総数	970,313	悪性新生物	300,586	31.0	238.7	心疾患	148,186	15.3	117.7	脳血管疾患	131,812	13.6	104.7
20～24	3,664	不慮の事故	1,276	34.8	15.9	自殺	1,183	32.3	14.7	悪性新生物	314	8.6	3.9
25～29	4,709	自殺	1,699	36.1	17.9	不慮の事故	1,084	23.0	11.4	悪性新生物	537	11.4	5.6
30～34	5,630	自殺	1,692	30.1	18.5	悪性新生物	995	17.7	10.9	不慮の事故	940	16.7	10.3
35～39	7,063	悪性新生物	1,724	24.4	22.0	自殺	1,685	23.9	21.5	不慮の事故	851	12.0	10.8
40～44	10,179	悪性新生物	3,232	31.8	42.3	自殺	1,918	18.8	25.1	心疾患	1,090	10.7	14.3
45～49	18,331	悪性新生物	6,980	38.1	82.7	自殺	2,441	13.3	28.9	心疾患	2,056	11.2	24.4
50～54	37,794	悪性新生物	16,056	42.5	146.7	心疾患	4,224	11.2	38.6	自殺	4,000	10.6	36.5
55～59	43,462	悪性新生物	19,757	45.5	238.8	心疾患	4,982	11.5	60.2	脳血管疾患	3,973	9.1	48.0
60～64	58,786	悪性新生物	27,682	47.1	351.3	心疾患	7,231	12.3	91.8	脳血管疾患	5,480	9.3	69.6
65～69	87,409	悪性新生物	41,185	47.1	568.1	心疾患	10,972	12.6	151.4	脳血管疾患	8,735	10.0	120.5
70～74	116,926	悪性新生物	50,064	42.8	828.9	心疾患	15,805	13.5	261.7	脳血管疾患	13,639	11.7	225.8
75～79	135,705	悪性新生物	47,446	35.0	1074.9	心疾患	20,524	15.1	465.0	脳血管疾患	18,932	14.0	428.9
80～84	145,953	悪性新生物	38,734	26.5	1428.8	心疾患	25,000	17.1	922.2	脳血管疾患	23,896	16.4	881.4
85～89	150,970	悪性新生物	29,363	19.4	1832.9	心疾患	27,832	18.4	1737.3	脳血管疾患	26,930	17.8	1681.0
90～	134,430	心疾患	26,077	19.4	3377.8	脳血管疾患	22,996	17.1	2978.8	肺炎	22,125	16.5	2865.9

—都道府県別の死亡率—

人口10万人対のがん死亡率が300を超えたのは307の秋田，304.2の山形の２県であるが，秋田は５年続けて最多県となった。以下，山口，島根，高知と続いている。（表４）

表４　死亡数と死亡率（人口10万人対）都道府県別順位

厚生労働省発表　日本対がん協会まとめ

	全死因			がん		
	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位
全国	970.313	770.7		300.586	238.7	
北海道	43,638	770.2	35	14,448	255.0	22
青森	13,281	902.9	14	3,933	267.4	15
岩手	13,039	925.4	11	3,765	267.2	16
宮城	17,300	733.4	38	5,398	228.8	40
秋田	11,872	1006.1	3	3,623	307.0	1
山形	12,062	976.7	6	3,757	304.2	2
福島	19,013	899.0	16	5,671	268.1	14
茨城	23,056	779.7	32	6,799	229.9	37
栃木	15,690	789.6	31	4,657	234.4	35
群馬	16,141	807.5	28	4,719	236.1	33
埼玉	41,459	600.1	47	13,309	192.6	46
千葉	37,806	640.0	44	12,013	203.4	44
東京	84,589	710.1	41	27,371	229.8	38
神奈川	51,886	612.9	46	17,027	201.1	45
新潟	22,267	904.4	13	6,765	274.8	11
富山	9,780	878.7	20	2,935	263.7	18
石川	9,439	803.3	29	2,883	245.4	29
福井	6,850	836.4	25	2,031	248.0	26
山梨	7,528	858.4	24	2,139	243.9	30
長野	19,356	885.5	19	5,315	243.1	31
岐阜	16,522	793.9	30	4,909	235.9	34
静岡	28,914	776.8	33	8,405	225.8	41
愛知	46,471	666.7	43	14,673	210.5	43
三重	15,051	820.2	27	4,216	229.8	38
滋賀	9,390	704.4	42	2,955	221.7	42
京都	20,027	770.0	36	6,426	247.1	27
大阪	61,709	713.5	40	21,014	243.0	32
兵庫	42,122	767.4	37	13,625	248.2	25
奈良	10,432	727.5	39	3,355	234.0	36
和歌山	10,297	970.5	8	3,083	290.6	6
鳥取	5,822	954.4	9	1,732	283.9	7
島根	7,666	1014.0	2	2,209	292.2	4
岡山	16,992	875.9	22	4,771	245.9	28
広島	23,432	820.4	26	7,333	256.8	21
山口	14,965	990.4	4	4,473	296.0	3
徳島	7,979	974.2	7	2,237	273.1	12
香川	9,169	901.6	15	2,694	264.9	17
愛媛	13,985	941.1	10	4,059	273.1	12
高知	8,308	1025.7	1	2,357	291.0	5
福岡	38,638	772.6	34	12,530	250.5	24
佐賀	7,815	895.2	17	2,407	275.7	9
長崎	13,430	890.6	18	4,281	283.9	7
熊本	16,017	863.0	23	4,659	251.0	23
大分	11,054	909.8	12	3,173	261.2	19
宮崎	10,232	877.5	21	3,014	258.5	20
鹿児島	17,445	980.6	5	4,897	275.3	10
沖縄	8,132	615.1	45	2,273	171.9	47

—がんの主な部位別死亡率の変化—

昭和30年（1955年）から5年置きに主ながん種別・死亡数・死亡率の推移を眺めてみると男性においては胃がんはわずかに減っているが，肺がん，肝がん，大腸がんによる死亡数・死亡率が著明に増えているのがわかる。

女性においては胃がんでは男性同様にわずかに減っているが，肺がん，大腸がん，肝がん，乳がんは増加傾向にある。子宮がんは確かに減っている。（表6，図1）

なお，平成13年度におけるわが国の死因順位別死亡数・死亡率は表5に示す通りで，がん（悪性新生物）が死因のトップとなっている。ついで心疾患，脳血管疾患，肺炎となっている。

すくない方では，200以下では沖縄が171.9，埼玉が192.6であるが，200を超える県としては201.1の神奈川，203.4の千葉，210.5の愛知などであった。

表5　性別に見た死因順位別死亡数・死亡率　人口動態から

死因	平成13年								
	総数			男			女		
		死亡数	死亡率		死亡数	死亡率		死亡数	死亡率
全死因		970313	770.7		528765	858.5		441548	686.6
悪性新生物	[1]	300586	238.7	[1]	181354	294.4	[1]	119232	185.4
心疾患	[2]	148186	117.7	[2]	72665	118	[2]	75521	117.4
脳血管疾患	[3]	131812	104.7	[3]	63118	102.5	[3]	68694	106.8
肺炎	[4]	85265	67.7	[4]	45735	74.3	[4]	39530	61.5
不慮の事故	[5]	39454	31.3	[5]	24965	40.5	[6]	14489	22.5
自殺	[6]	29333	23.3	[6]	21063	34.2	[8]	8270	12.9
老衰	[7]	22137	17.6	[11]	6091	9.9	[5]	16046	24.9
腎不全	[8]	17675	14	[9]	8195	13.3	[7]	9480	14.7
肝疾患	[9]	15837	12.6	[7]	10902	17.7	[10]	4935	7.7
慢性閉塞性肺疾患	[10]	13063	10.4	[8]	9665	15.7	[14]	3398	5.3

注1）[ ]内は死因の順位

2）男の10位は糖尿病で，死亡数は6358，死亡率は10.3

3）女の3位は糖尿病で，死亡数は5776，死亡率は9.0

表6　がんの主な部位別に見た死亡数・死亡率（人口10万人対）の変化　人口動態統計

	昭和30年		40		50		60		平成7年		12		13	
男性	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
胃	22,899	52.2	28,636	59.4	30,403	55.6	30,146	51.1	32,015	52.6	32,798	53.3	32,262	52.4
肝	4,877	11.1	5,006	10.4	6,677	12.2	13,780	23.3	22,773	37.4	23,602	38.4	23,587	38.3
肺	1,893	4.3	5,404	11.2	10,711	19.6	20,837	35.3	33,389	54.8	39,053	63.5	39,900	64.8
大腸	2,073	4.7	3,265	6.8	5,799	10.6	10,112	17.1	17,312	28.4	19,868	32.3	20,262	32.9
女性	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
胃	14,407	31.7	17,749	35.5	19,454	34.4	18,756	30.6	18,061	28.5	17,852	27.8	17,687	27.5
肝	3,700	8.1	3,499	7.0	3,696	6.5	5,192	8.5	8,934	14.1	10,379	16.2	10,714	16.7
肺	818	1.8	2,321	4.6	4,048	7.2	7,753	12.7	12,356	19.5	14,671	22.9	15,128	23.5
乳房	1,572	3.5	1,966	3.9	3,262	5.8	4,922	8.0	7,763	12.2	9,171	14.3	9,652	15.0
子宮	7,289	16.0	6,689	13.4	6,075	10.7	4,912	8.0	4,865	7.7	5,202	8.1	5,195	8.1
大腸	2,160	4.8	3,335	6.7	5,654	10.0	8,926	14.6	13,962	22.0	16,080	25.1	16,679	25.9

注）大腸は，結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を示す。

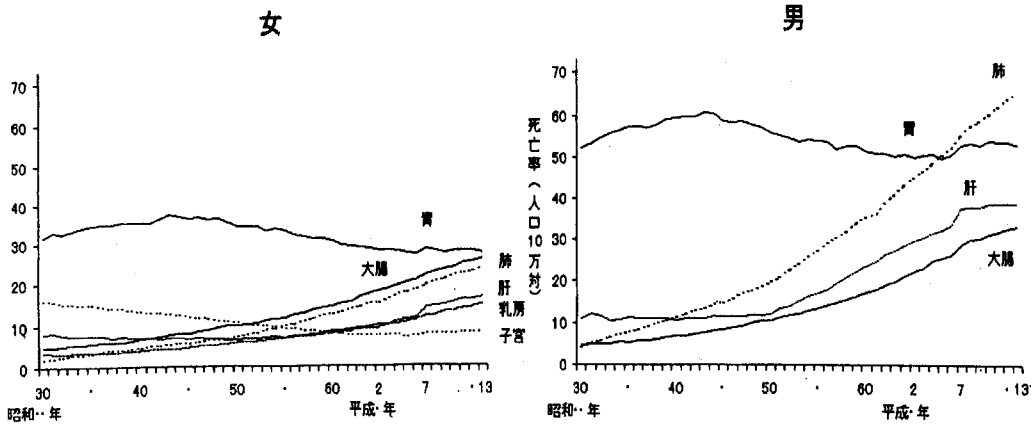

図1　悪性新生物の主な部位別死亡率の年次推移 人口動態から

都道府県別に部位別に死亡率(人口10万人対)を眺めてみると，

胃　：山形60.8, 秋田60.6, 新潟53.6, 山口50.3, 和歌山49.7

大腸：秋田41.0, 岩手40.3, 山形40.2, 鳥取36.4, 島根35.3

肝　：佐賀43.1，和歌山42.6，徳島40.3，福岡39.8，広島39.6

肺　：和歌山58.1，高知56.4，山口56.3，山形54.6，長崎53.7

乳房：東京18.9, 山口18.5, 茨城16.8, 富山16.5, 山形・神奈川・岐阜16.2

子宮：鳥取10.4，熊本10.2，長崎10.1，徳島・鹿児島10.0，山口9.9

以上が，平成13年度・人口動態統計からみたわが国におけるがん死亡の実態である。がん死亡者がここ年々増えている最大の理由は人口構成の高齢化によるといわれている。最初に述べたよう検診活動によってがん患者の約50%は治癒しているにもかかわらず，がん死亡数が30万人を突破している現実を直視して，もっともっと早期発見・早期治療につながる効率的ながん制圧対策を強力に実施しなければならない。近年分子生物学の進歩はがんの本態解明に大きく寄与してがんの一次・二次予防に大きな夢と希望を与えつつあるが，いま当分の間は早期発見のために集団検診にもっとも力を入れる必要がある。

その基本は国民１人１人が自らの生命は自らの努力によって守るのだ。そしてがん検診は自らの責任において受診してゆく覚悟と姿勢こそが大切であって，自分の生命を他人まかせにしてはならない。

国は医療費の高騰に腐心しているが，がんの早期発見・治療がもっとも経費の節減につながるのである。いまこそ，がん検診は保険を適応させ，国民１人１人に少なくとも年１回の検診，健康チェックを受けられるようにすべきではないだろうか。